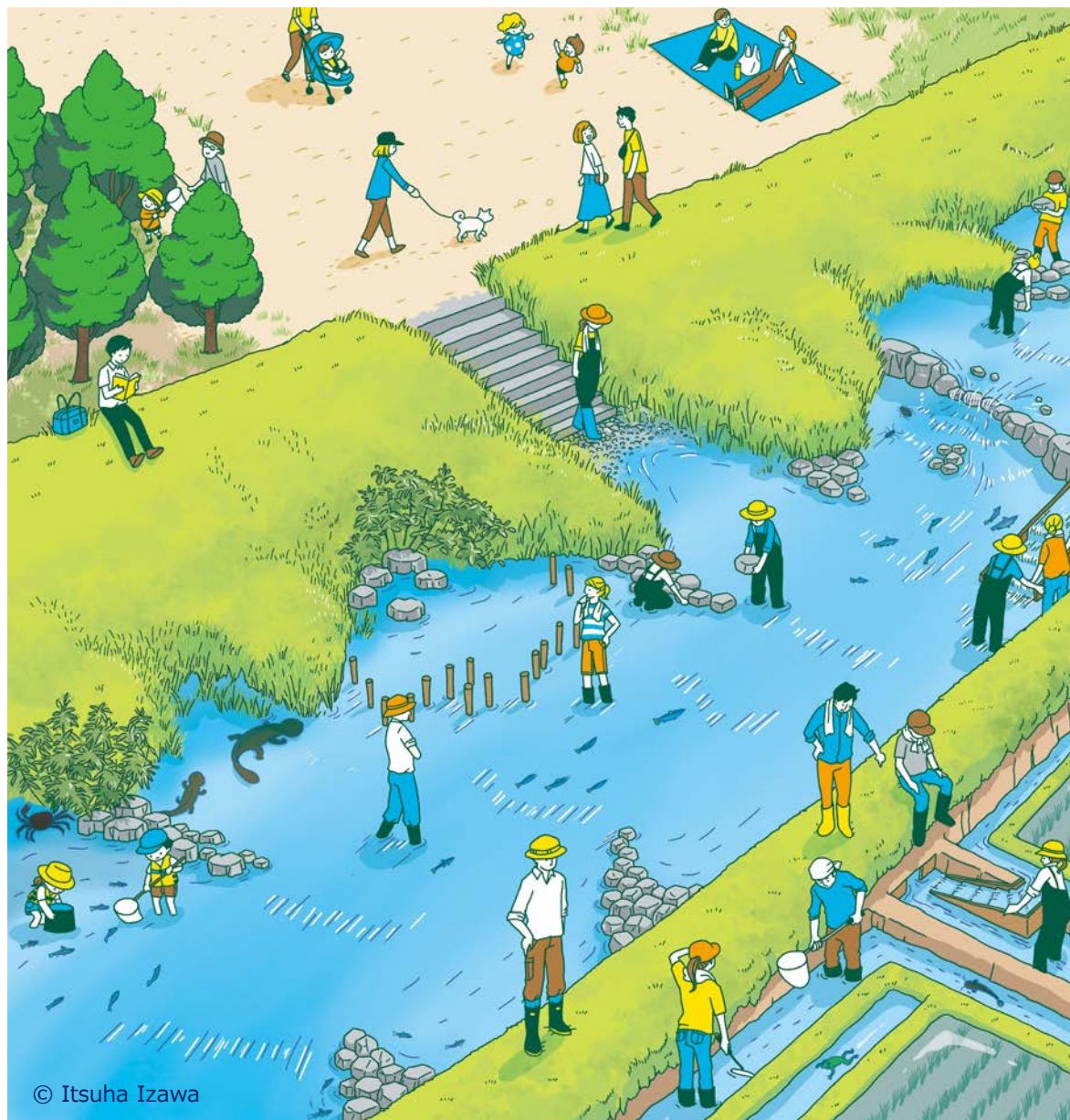


小さな自然再生サミット 2025京都大会

～ みんなで考える「小さな自然再生」の次の一手 ～

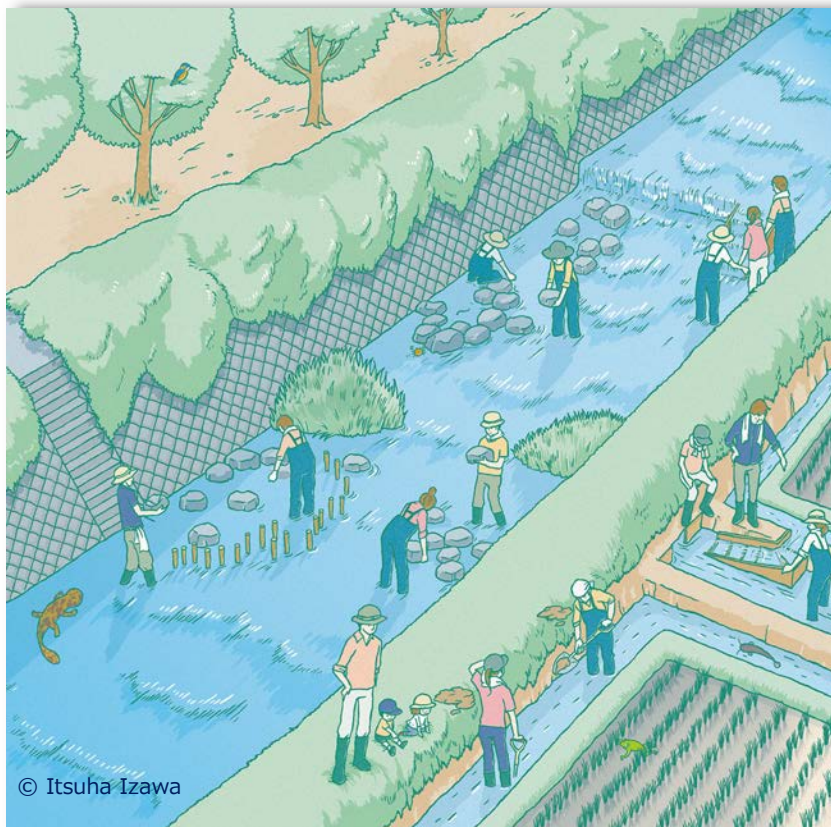


- 【日時】 2025年12月7日(日) 10:00～17:00
- 【場所】 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ
- 【主催】 小さな自然再生サミット実行委員会
- 【後援】 国土交通省、環境省、公益財団法人リバーフロント研究所
- 【協賛】 いであ(株)、(株)伊藤園、(株)ウエスコ、王子ホールディングス(株)、(株)KANSOテクノス、共和コンクリート工業(株)、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所、(株)ジャッカル、(一財)セブン-イレブン記念財団、(株)デプス、日本工営都市空間(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)北海道技術コンサルタント

表紙のイラストについて

- 「サミット2025京都大会」のイラストは、「サミット2019神戸大会」のイラストを担当した実行委員の三橋さんとイラストレーターの伊ザワイツハさんが作成しています。
- 7年間の小さな自然再生の積み重ね。小さな変化を探してみてください。

2019年1月
『サミット2019
神戸大会』
イラスト



7年後

2025年12月
『サミット2025
京都大会』
イラスト



■プログラム

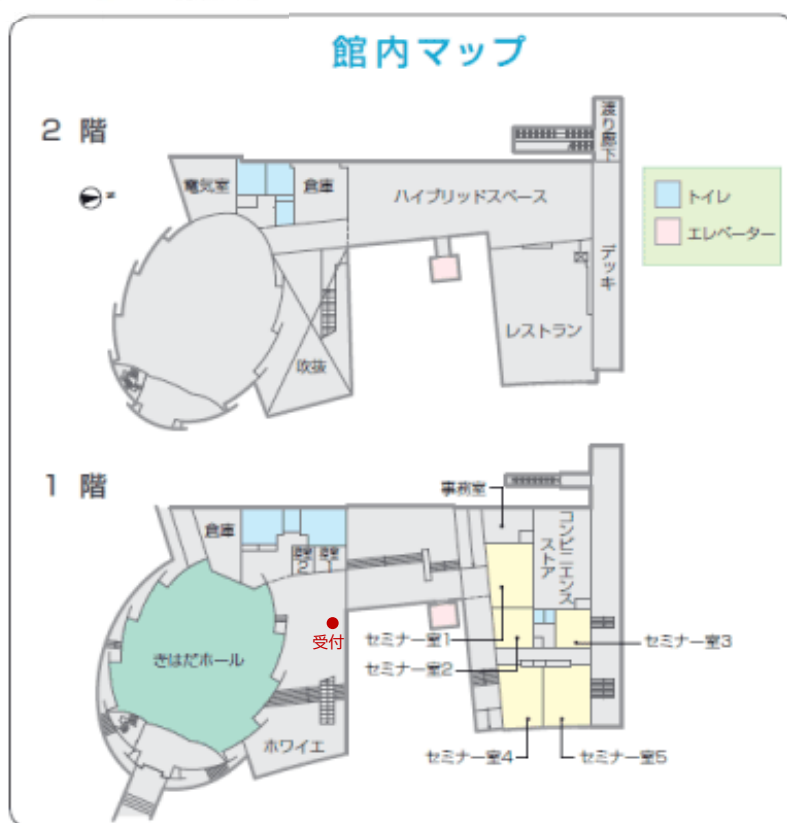
10:00	サミット開会 (実行委員長挨拶、来賓挨拶)	@きはだホール
10:15- 12:40	全国事例発表 (4分×30団体)	@きはだホール
12:40- 13:40	昼食&事例発表者ポスター交流	@ハイブリットスペース
13:40- 16:00	パネルディスカッション ～「小さな自然再生」の次の一手を考える～ ※終了後に参加者全員で集合写真	@きはだホール
16:10- 17:00	茶話会	@ハイブリットスペース

※CPDについて

参加申し込み時にCPDを申し込まれた方は、9:30～10:00の受付時に再度お知らせください。

茶話会開始前の16:00～16:10に、受付にてCPD受講証明書をお渡しします。

■宇治おうばくプラザの案内



注意点等

- 宇治おうばくプラザ内は禁煙となります。
- きはだホール内での飲食は、厳禁となっています。
- 飲食は、ハイブリットスペースでお願いします。
- ポスター、展示物は、各自で掲示・展示いただき、茶話会終了後の17:20までに片付けをお願いします。

■全国事例発表(30団体)

No.	都道府県	発表タイトル	団体名
1	北海道	サクラマスが遡上する都市河川 ～琴似発寒川の未来へとつなぐ産卵場所づくり～札幌工業高等学校土木科の挑戦	北海道札幌工業高等学校土木科
2	北海道	手づくり魚道の「出口」をどう見定めるか～北海道・三郎川魚道の17年	NPO法人えんの森
3	茨城	生き物を増やす釣り人の活動 in 霞ヶ浦 ～魚道研修会后、さらにパワーアップ！～	NPO法人水辺基盤協会
4	栃木	小河川の雑魚爆増！竹束でつくる雑魚の大人気越冬地	栃木県立馬頭高等学校水産科
5	長野	小さな流域治水 ～学校から見た学びの場づくりとしての小さな自然再生～	更北中学校ものづくり部理科班
6	長野	耕作放棄地のビオトープから生まれるネイチャーポジティブ	高山村立高山中学校
7	福井	福井県南川における可搬魚道(ポータブル魚道)によるアユ、カジカ類の遡上効果	福井県立大学
8	福井	水の道再生プロジェクト ～伝統技法(しがら、ボサ、石積み)による手しごと治水～	福井かひる山 風土舎
9	静岡	「小さな自然再生×自然学校」の取り組み～小さな自然再生の可能性を探る、芝川でのチャレンジ～	特定非営利活動法人ホールアース自然学校
10	静岡	二級河川瀬名新川 ～ご近所さん・大学生・ちょっとと行政との協働による水辺の小さな自然再生～	瀬名新川★生き物育て隊(静岡県静岡土木事務所)
11	愛知	愛知のいい川づくり	愛知県建設局河川課
12	滋賀	家棟川にビワマスを取り戻せ！ ～本設魚道設置までの道のり～	家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト
13	滋賀	滋賀県東近江市における農業排水路のエコアップ	株式会社IHI
14	滋賀	みんなでつくる野洲川のアユの産卵場	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所
15	京都	鴨川天然アユの壁問題と井桁魚道(≠魚道)	京の川の恵みを活かす会
16	京都	みんなの川塾 ～大手川の環境改善と流域学習～	京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部
17	大阪	淀川河口域の自然再生活動 ～石干見～	大阪市漁業協同組合
18	兵庫	福田川水系の生物多様性確保のための自然環境調査について	福田川クリーンクラブ
19	兵庫	現地研修会で清流づくり委員会と高校と県民局とのコラボに発展	千種川圏域清流づくり委員会
20	兵庫	丹波篠山市における「ふるさとの川づくり」への取り組み	ふるさとの川づくりワーキングチーム(丹波篠山市役所)
21	岡山	小さな村で始まった水域をつなぐ小さな自然再生	株式会社エーゼログループ
22	岡山	川ガキが 戻りつつある 日笠川	わけっこパーク
23	徳島	川遊びから、川づくりへ！ ～小さな自然再生で、みんなで行う川づくり文化をつくる～	NPO法人川塾
24	徳島	神山の先達とともに、鮎喰川にもう一度、鮎を！	一般社団法人神山つなぐ公社
25	香川	サケ・マス類の自然産卵促進に向けた可搬魚道開発の挑戦	国立高専機構香川高等専門学校高橋研究室
26	高知	幼稚園と保護者と技術者が合作する、園児専用里山体験フィールド「若草幼稚園 すくすくの森」since1989	学校法人若草幼稚園
27	福岡	グリーンインフラ論「唐の原川」での小さな自然再生の実践	九州産業大学
28	福岡	山田緑地で行う水辺環境の保全・再生 ～魅惑の湿地帯ビオトープづくりと外来生物駆除～	北九州市立山田緑地管理事務所
29	大分	温泉観光地の親玉、大分県別府から生き物と自然の魅力を発信～亀川プロジェクト「人と温泉と生き物と」～	NPO法人北九州・魚部
30	大分	治水・利水・環境の三方よし！由布院温泉の宮川再生プロジェクト	豊かな水環境創出ゆふいん会議

サクラマスが遡上する都市河川 ～琴似発寒川の未来へつなぐ産卵場所づくり～

北海道札幌工業高等学校土木科
中居 宙斗



【活動場所】北海道札幌市・新川水系琴似発寒川流域

【実施体制（仲間）】

北海道札幌工業高等学校土木科、株式会社北海道技術コンサルタント、
札幌市豊平川さけ科学館、北海道空知総合振興局札幌建設管理部、
SWSP・向井氏



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

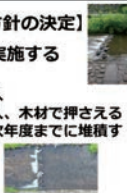
①活動概要

都市河川の琴似発寒川は、治水を主な目的として整備が行われています。その結果、ところによっては川底の礫が流されたあと、上流から供給されず、サクラマスの産卵適地は限られた状態となっています。そこで、サクラマスの生態、河川環境、治水等を探究し、「自分たちでサクラマスの産卵に適した環境をつくる」ことを目標に研究をしています。

①【施工場所と施工法の方針の決定】

3箇所の帯工で施工を実施する

- 1 箇所目…右岸側に礫を投入
- 2 箇所目…右岸側に礫を投入、木材で押さえる
- 3 箇所目…木材を入れる→次年度までに堆積するか検証

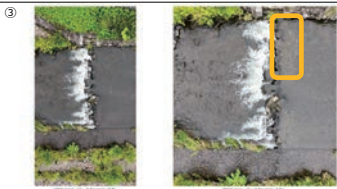


②【施工】

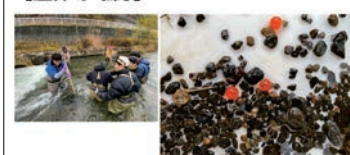
礫の移動と搬入



③



④【産卵の確認】



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

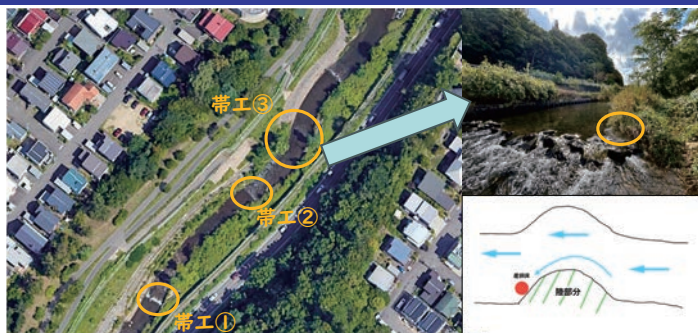
4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと、得たことと今後の課題



【研究を通して】

- ・帯工③では施工していない場所に礫がたまり産卵床となっていた！
- ・水を相手にするのは難しい。礫の流出や堆積は「流れの向き」や「地形」が大きく影響することが改めてわかった。
- ・同じ場所でも毎年変化があるので継続することで最適な産卵環境の構築を目指したい。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

【やってみたい】

「琴似発寒川 札工河川ミーティング」

課題研究河川班の先輩方と現役生徒が集まり、ボランティア活動（河川清掃・改善活動）や、今の取り組みの報告、思い出話をする交流会を開催したい。

【感謝】

様々な方々に協力を頂き、探究することができた。
「考えた事」や、「やってみたいことに挑戦させてもらっている事」に感謝しています。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

「手づくり」の出口をどう見定めるか 北海道・三郎川魚道の17年

NPO法人えんの森
中川大介



【活動場所】 北海道浜中町・三郎川流域

【実施体制（仲間）】 NPO法人えんの森、浜中町、JA浜中町、認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- 風蓮川水系三郎川は酪農地帯を流れる流程約10kmの普通河川。飲み水と酪農用水を取る堰（1972年建造、堤高1・5m）が上流の産卵適地に向かうイトウなどの魚類の遡上障害になっていた。
- 高級アイスクリーム「ハーゲンダッツ」の原料となる高品質の生乳を生産しながら「自然と調和した酪農」を目指す酪農家が、環境再生運動「緑の回廊」の一環で、2008年に浜中町、JA浜中町、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストとともに魚道設置委員会を設立。資金と労力を出しあい、ユニークな形状の魚道を「手づくり」した。
- 設置後は魚の遡上が容易になり、上流でイトウの産卵床が確認された。魚道は環境学習にも使われ、地域の結束力を示すシンボルになった。
- 川砂を使った土のうや丸太など地域にある自然素材を使い、あえて「ときどき壊れる」構造にしたため、観察と補修が必要。住民の注意を引き付け、環境への関心を高める役割を果たしてきた。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2008年10月に完成した三郎川手づくり魚道。魚類の遡上障害となっていた取水堰の下流に、木材や土のうなどで造った「三角水制」を4個並べて堰上げする構造

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 「ときどき壊れる」構造だけに大雨で何度か壊れ、2014年にコンクリートを使って大規模に補修した。酪農家で立ち上げたNPO法人えんの森が魚道設置委員会の事務局となって維持管理にあたり、2025年10月にも小規模な補修を行った。各団体の拠出金で維持管理資金は確保できている。
- ただ、設置から今年10月で17年。浜中町では離農と大規模化が進み、コミュニティワークに加わる人が大きく減った。時間の経過と深刻な人口減少に伴う住民・関係団体の数や関心の低下が、魚道の維持管理を困難にしている。
- 2025年春から魚道設置委員会で、魚道の今後の在り方の協議を始めた。①メンテナンスフリーの簡易な魚道への置き換え②完全な撤去③そのまま成り行きに任せる—の三つの選択肢が想定される。
- 設置時点で「維持困難になった、その先」を考えていなかった。関与する人が減る中で、結論を出して対処していかなければならない。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年10月の魚道補修作業。大雨で損壊した後の2014年に大規模補修し、右岸側の三角水制1個とコンクリートを使った「導流堤」で堰上げする構造となり、これを補修しつつ維持している

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 2026年中には魚道の取り扱いについて結論を出し、置き換え／撤去といった作業を実行に移したい。関係団体や住民、環境に関心を持つ人に広く呼び掛けて、作業に加わってもらいたい。
- 「小さな自然再生」に取り組む方々が、プロジェクトの「出口」をどのように見定めているか知りたい。開始から時間がたち、かかわる人の数や関心が低下した際に、どのようにプロジェクトを維持するか／終わらせるか、実際に取り組んだ方の経験をお聞きたい。
- 魚道設置の経過や、魚道の手づくりの意義については、拙著『水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す』（農文協、2023年）で詳述した。今後の協議経過や改修または撤去についても何等かの形でまとめて、「小さな自然再生」に取り組む方々の参考資料としたい。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

霞ヶ浦で生き物を増やす釣り人の活動

～ 現地研修会後の取組みと今後の展望 ～



NPO法人 水辺基盤協会

小野 正人



【活動場所】 茨城県 稲敷郡 阿見町 他・霞ヶ浦流域

【実施体制（仲間）】 NPO法人 水辺基盤協会

日本大学理工学部 安田陽一教授、天海建設（株）

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所、霞ヶ浦導水工事事務所、茨城県 霞ヶ浦環境科学センター、土浦市、阿見町、美浦村

釣り人が居れば水辺は綺麗になる。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

活動の原点は、『きれいなミズで釣りがしたい！』＆『霞ヶ浦への恩返し！』

■ 廃止になりかけた植生浄化施設を復活！ ～新たな価値を創造～

- 2017年10月から2回の活動を8年間続け、荒れ果てた施設が見事に復活！生き物もたくさん増えた！
- 水路の多自然化や再湿地化により、生物生息・繁殖環境が向上！
- 環境学習（釣り教室など）を行い、施設の利用価値を高めた！



■ プロ釣り集団の活動だからこそ！

- ボウズなし！絶対に釣らせる釣り教室！（ライフジャケットもね）
- 釣り人だからわかる魚の気持ち！（笑）
- 釣り人だから魚を増やしたい！釣り文化も伝承したい！

■ 令和6年度 手づくり郷土賞（国土交通大臣賞）受賞！

- 霞ヶ浦の豊かな水辺環境の再生を目指した植生浄化施設での活動を評価していただきました。

■ 第27回 日本水大賞（環境大臣賞）受賞！

- 釣り人の思いから始まった30年の清掃活動とその後の環境保全活動を評価していただきました。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



学びと体験を楽しむ！

7/12 日本大学・安田教授と一緒に魚道の改良

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

1. 活動の参加者や会員を増やしたい！

- いずれ訪れる理事長やコアメンバーの世代交代
- 担い手確保や人材育成の促進をどのように？

2. もっと活動資金を確保したい！

- 助成金の申請ってけっこう手間にかかろ。。。（1. にも関連しますが、活動の対価が必要！）

3. 専門知識がちよっと不足。。

- そもそも、生態学、生物、水環境等々に関する基礎知識がそもそも不足気味。。

4. 関係機関等とのコミュニケーション向上！

- お役所は担当者が変わると対応が変わる場合も。。

5. さらにこの場所の存在（環境）価値を高めたい！

- 『自然共生サイト』への登録ってどう？他に何かある？
- 場や活動の価値を高めることで、PRのネタになるか？

- 楽しいと思ってもらえること
- 魅力を感じてもらふこと
- 負担にならないこと

● 効果的な広報・PR手法？

● 中高生や大学生の参加？

アプローチの方法？

● 助成金申請先や工夫点？

● 企業から連携や支援を頂く方法？

アプローチの方法？

● コーディネーター？

● アドバイザーの確保？

● コミュニケーションの工夫？

上記につながる？

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



最高の笑顔！

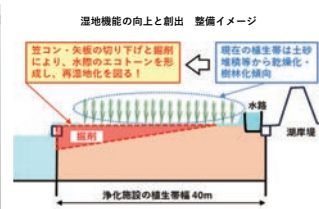
6/14 ファミリー釣り教室

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

1. さらに湿地を拡大、生物多様性の質と機能向上など、やりたいことは山盛り！



- 霞ヶ浦の湖岸植生帯は減少傾向が止まらない！この場所は自然には無くならないので、質の維持・向上を図ることでより貴重な場になり得る。

2. 『小さな自然再生』を大きなムーブメントに！？

- 行政各部署、学校関係者、企業、団体、農業・漁業者、市民など、あらゆる関係者との意見交換や発表の場

【キーワード等】 霞ヶ浦の水環境の変遷、自然を維持するには人のかわかりが必要、流域総合管理、生態系サービス、ジブングト、植生帯（エコトーン）減少、ワカサギ、水質、水利用、ゴミ、歴史や文化、環境学習、霞ヶ浦導水...

- ⇒ 幅広い情報収集、課題の共通理解、活動のきっかけづくり、などを期待

知る（視野を広げる）

わかる（認め合う）

行動する（連携する、刺激しあう？）

★ 流域、沿川住民の皆様が、霞ヶ浦の生態系サービスを『ジブングト』として意識して行動！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

小河川の雑魚爆増！ 竹束でつくる雑魚の大人気越冬地

栃木県立馬頭高等学校 水産科
佐々木 慎一



馬頭高校HP 東京水産振興会HP

【活動場所】 栃木県那珂川町・那珂川流域

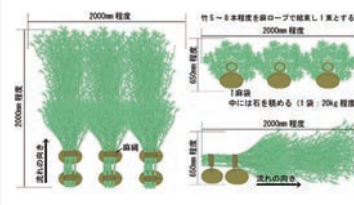
【実施体制（仲間）】 栃木県立馬頭高等学校水産科、東京水産振興会、
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所（坪井 潤一氏）、
栃木県水産試験場、栃木県烏山土木事務所

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

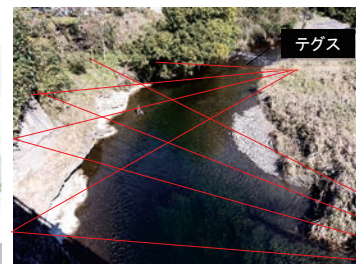
1

①自慢したいこと、強みなど

- ①竹を束にして沈める ②黒テグスを張ってカワウの侵入を防ぐだけ
- 竹束を沈める→魚を集める→狭い範囲でカワウを防ぐことが可能
- 支流で多くの個体が越冬→親魚数が増える→個体数増加
- 費用が安い（麻縄、麻袋、流失防止用ロープ、テグスのみ）
- 設置も容易（4人で約3時間）



11月～3月くらいまでの期間沈める



黒テグスが効果大 出るだけ多く張る

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 河川の堆積土除去工事や護岸などで雑魚類の越冬に適した大きな淵が少ない。→支流の魚が下流に下ってしまい過疎化
- コイが数少ない良い淵を占拠すると雑魚が越冬できない。（競合）
- 水深の大きな淵、反転流、カバーの存在が越冬適地の条件？

淵が減れば越冬できる個体数も少なくなる。
次の年の親魚の個体数も減る→再生産も減る。



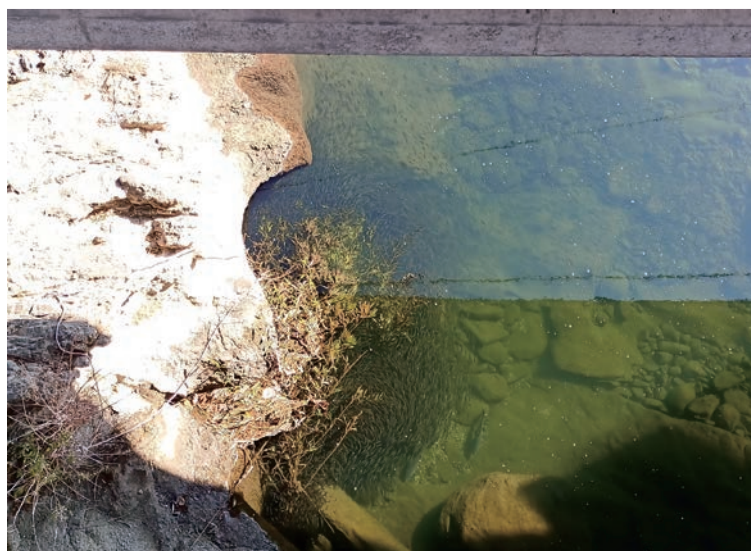
越冬場所の環境収容力がボトルネックにならないよう
大きなM型の淵の保全は重要？



コイが竹束を占拠した2021年は雑魚が激減。
2022年はコイを間引きしたところ雑魚が大量に越冬。
間引きしたコイの胃内容物からは雑魚類が出てきた。
コイが多くいる淵では雑魚類は越冬しない？コイが増え過ぎる×

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

竹束を使った越冬地づくりの普及

- 全国の内水面漁協、小さな自然再生に取り組む団体に広めたい！
（竹束→占用許可、テグス→一時使用許可 河川管理者の理解）
- 中小河川や農業用水路、ため池、ビオトープ池などでも効果的？
→柴漬け魚とほぼやっていることは同じなので止水でもおそらく使える。

上中流域の瀬と淵と巨石の保全活動
（多自然川づくりの普及）

- 上中流域の魚類の保全のためには平面だけではなく、瀬と淵と巨石など河床環境がとても重要。
- 希少種の保全も大切だけど…普通種がたくさんいるいい川づくり。
- 巨石を使った見試的な施工の事例を増やす。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

6

小さな流域治水 ～学びの場づくりとしての小さな自然再生～

更北中学校ものづくり理科班
佐々木 宏展



【活動場所】 長野県・長野市・千曲川流域

【実施体制（仲間）】 本プロジェクトは、更北中学校ものづくり部理科班が主催として実施しました。連携機関として、須坂市技術情報センター科学クラブ、更北地区住民自治協議会、更北流域治水研究会、長野市立博物館・地元企業などが挙げられます。地域の知見・技術・人的資源を活かしながら共同で運営します。これらの団体が相互に協力することで、地域課題の探究や流域治水への理解促進など、多面的な学びを支える体制を構築できました。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど



水防の歴史

更北の地域は自治的な技術の積み重ねがある

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4

河川の合流地点・旧流路・水がたまる場所に位置づく耕作放棄地



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

教員は異動がある。地域が学びの場づくりメニューとして、小さな自然再生が普通になるにはどのような条件が必要なんだろう？

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

探究地図（今風にSTEAMとかで語ってもよいと思う）



生徒の好奇心のベクトルは様々。小さな自然再生という概念で包摂

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”



- 信州やまほいくとコラボ
- 保育園・幼稚園などが取り組む小さな自然再生図鑑づくり
※遊んでいたら、それが自然再生になった？！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

耕作放棄地のビオトープから生まれる ネイチャーポジティブ

高山村立高山中学校
今田 晴美



【活動場所】長野県上高井郡高山村・千石田んぼ

【実施体制（仲間）】高山村立高山中学校、中山田耕作組合
小宮春平さん(福岡県・鳥取県生物多様性アドバイザー)
保全団体「わかぜん」、公立鳥取環境大学生物部

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

①自慢したいこと、強みなど

- 取耕作放棄地に自らビオトープをつくる稲作農家の皆さん
- 保全のスペシャリストとの連携
小宮春平さん、「わかぜん」の皆さん
公立鳥取環境大学生物部の皆さん
- 中学生による里山環境の保全活動



立場や世代を越えた協働的生物多様性保全
ネイチャーポジティブ

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



山田牧場

高山中学校



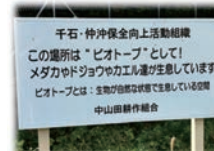
中学生による
千石ビオトープでの保全活動



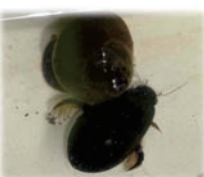
2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 困難なアメリカザリガニ防除
- 地域住民、村民への普及啓発方法
- 保全活動の継続



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



マルタニシ(NT)と
クロゲンゴロウ(NT)



アカハライモリ(NT)



マルガタゲンゴロウ(VU)
特定第二種国内希少野生動植物種

小宮春平さん



<http://www.youtube.com/@ariake538>



アメリカザリガニ
条件付特定外来生物

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

③今後コラボしたい“こと”や“人”、今後の展望

- ビオトープを含む里山全体の保全活動
- 自然共生サイトへの登録
- 子どもと大人を繋ぐ橋渡し



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

福井県南川における可搬魚道（ポータブル魚道）によるアユ、カジカ類の遡上効果

福井県立大学 海洋生物資源学部
田原大輔
香川高等専門学校 建設環境工学科
高橋 直己

【活動場所】 福井県小浜市・おい町、南川流域

【実施体制（仲間）】 香川高専高橋研究室、おい町、若狭河川漁業協同組合

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- ポータブル魚道でアユ汲み上げ放流中止⇒漁協との連携強化
- アユだけでなく、**落差遡上弱者のカジカ類**も遡上できていた！
- カメも利用していたこと⇒水生生物の移動経路に



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

4

漁協によるアユ汲み上げ放流～春の風物詩～



高齢化した河川組合には
重労働

いつまで続けられるのか？

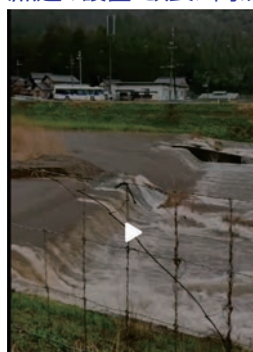


2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

1

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 増水時の耐久性
- 水量増減に合わせた維持管理
- 恒久魚道の設置・改良に向けての取り組み



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

5



ポータブル(V型可搬)魚道設置
⇒汲み上げ放流中止

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 設置条件の見極めが最重要！
- アユだけでなく多くの魚類・水生生物にも有効
- アユが遡上できず滞留している堰はありませんか？

2024アユ遡上回復：V型魚道（香川高専共同研究）



4/7～6/17;長さ3m、幅30cm、設置角度20度

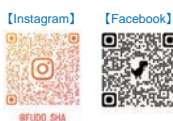
2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

6

水の道再生プロジェクト

～伝統技法(しがら、ボサ、石積み)による手しごと治水～

福井かひる山 風土舎
吉田かおり



【活動場所】 福井県南条郡南越前町・鹿森川流域

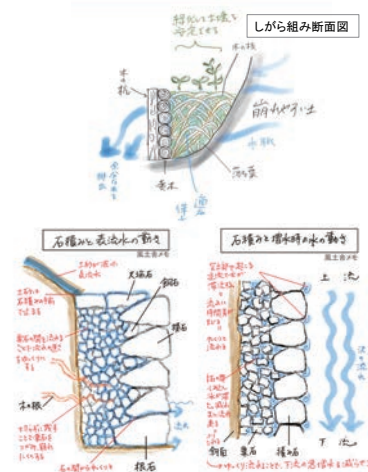
【実施体制(仲間)】 福井かひる山 風土舎

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- 山林が荒廃している状況下で自然界と人の営みのバランスをとつつ、安全に暮らしゆるける里山にするため、小さな治水に取り組んでいます。
- 人口減少が著しい中山間地域では、今後、住民の暮らしを守るための大規模な工事が難しくなっていくと思われます。**自分たちの手でできること**として、低コスト・住民主体で実践できる技術が鍵になってくると考え、学びの場を作っています。
- 水を「止める」のではなく「**いなす**」ことに主眼を置いた伝統工法“しがら組み”、“ボサ置き”、“石積み”をWS形式で作り、緑化も図っています。
- もし崩れたとしても、自分たちで補修・改良でき、暮らしの中で無理なく続けられるのが手仕事の強みです。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



取り組み前の状況

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 取り組みに際して知りたいこと
 - ・活動場所の自然環境の現況(植生、生物相、地質、地形など)を把握し、モニタリングもしていきたいが、その手法がわからない。
 - ・どうしたら町で暮らす人や地元住民が関心を持ち、「自分ごと」として関わるようになるか。
- 課題
 - ・取り組みのための資金が不足している。
 - ・一緒に活動してくれる仲間を増やしたい。
 - ・この活動をより多くの人に知ってもらいたい。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



石積み

しがら組み

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 森や山に関心を持つ入口として、ワークショップとは別に「南えちぜん森のがっこう」と題してイベントを開催しています。間口を広げるため、それぞれの分野の人を講師・協力者として迎えてコンテンツを増やし、森から得られるものを使って何かを作る、食べる、楽しむなど、多様な場を設けていきたいと考えています。
- 手しごと治水は、過疎地が増え、かつ災害が多発している日本中で役に立つものです。風土舎で学んだ方々と連携しながら、活動を全国に広げていきたいと考えています。



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

「小さな自然再生×自然学校」の取り組み ～小さな自然再生の可能性を探る、 芝川でのチャレンジ～

特定非営利活動法人ホールアース自然学校
松尾章史



【活動場所】静岡県富士宮市・富士川流域

【実施体制（仲間）】

芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会

特定非営利活動法人ホールアース自然学校

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

① 自慢したいこと、強みなど

● 取組の概要

2025.10.21（火）10:00-17:00

・環境教育プログラム化を念頭に置いた小さな自然再生活動

→魚プラステーションづくり、バープ工づくり体験、水ろ過実験など

● 効果

・有志の会のメンバーで、環境教育プログラムを検討することに

・企業の方と、プログラムのトライアルを検討することに

● 自分たちの強み

・芝川での自然体験の提供

→安全管理技術やプログラムノウハウの蓄積

・企業や行政との連携実績

→環境教育プログラムのスムーズな試行、社会実装

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

② 知りたいこと、悩みごとや困りごと

● 取組に際して知りたいこと

・小さな自然再生を安全に、効果的に進めるための資材・道具

→各地で取り組まれている皆さんが小さな自然再生を進める上で
「これは必須！これは使える！」という道具を教えてください

● 直面している課題や壁、解決したい困り事

・地域のキーマンや関係者に、取組みを理解して頂く際のポイント

→地域「外」の方々に参加頂けることが多い一方で、
地域「内」のご関係者にご参加頂けていない

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③ 今後コラボしたい“こと”や“人”

● 今後こんな取組みをしていきたい

・小さな自然再生活動の、環境教育プログラム化！

● 今後こんな専門家とコラボしてみたい

・小さな自然再生×環境教育の効果を計測・評価して頂ける方！

● こんな仲間を巻き込み一緒に取組みたい

・体験プログラム化するプロセスを楽しみながら一緒に頂ける方！

ぜひ一緒にさせて頂けると嬉しいです！
富士山の麓・芝川でお待ちしています♪

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

二級河川瀬名新川

～ご近所さん・大学生・ちょっと行政との
協働による水辺の小さな自然再生～

瀬名新川★生き物育て隊（静岡土木事務所）
中村 晃久



【活動場所】 静岡県静岡市・巴川流域

【実施体制（仲間）】 瀬名新川★生き物育て隊、東海大学海洋学部水棲環境研究会、
常葉大学自然体験クラブ・ピオエデュ、静岡県静岡土木事務所、静岡市環境大学有志、
東瀬名町自治会、東瀬名町婦人青年部、静岡市環境共生課

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- 1982年（小6）道路工事で瀬名新川が無くなる！と聞き、憤慨。
- 1989～93年（京都で大学生）鴨川に感化。卒論「川と人との関わり」。ただ、多自然型川づくりは1人ではムリ→川から離れSEに。
- 1996年多自然型川づくりⅢを読み退職。1998年静岡県土木へ
- 2006年 小1長男、年中次男と改修後初めて瀬名新川へ入る→カワニナとザリガニ、スミウギゴリ発見。川は減んでいなかった！
- 2007年 庵原川ワーショップ 石倉カゴへ続く→瀬名新川でもやりたい！
- 2011年 小学校で長尾川たんけん隊実施→瀬名新川でもやらねば！
- 2023年 瀬名新川・河床掘削工事で再び生き物ピンチ！？
お向かいに住むKくん(中3)に多自然誘うとOK→1人ではない！
近所(12組)の親子も誘って、「瀬名新川★生き物育て隊」結成！
助っ人東海大、常葉大生と「水辺の小さな自然再生」実施！
- 2024年 全国多自然川づくり会議出場、しずおか川自慢大賞受賞
県、市とリバーフレンドシップ締結→自治会(流域住民)もバックアップ
- 2025年「自然再生」でご近所の交流も活発に→「まちづくり」へ！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4

瀬名新川★生き物育て隊（ある日の）メンバー



R7-09-20 第2回水のおまわりさん（生き物調査）とゴミ拾い

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 水制工やバープ工をしても、河床に砂礫の土砂がたまり、平坦な河床になってしまう。何かいい方法はないか？
- 川に隣接した土地の護岸を壊して遊水地にしたいがその手法は？
- 瀬名新川を紹介する「瀬名新川図鑑」を発行したいが、どんなことに気を付けた冊子にするのが良いか？お金はどのくらいかかる？
- 現在は管轄する県静岡土木事務所に勤務しているため、多自然川づくりのアドバイス（目を光らせている！？）ができるが、異動した後は、また多自然川づくりが進まない可能性が高いがどうしたらよいのか！？

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 瀬名新川クラスの小河川で小さな自然再生をやっている団体、専門家と情報交換をしたい。
- 産官学民のうち、産とのコラボができていないので、産とのコラボをしたいのですがどうしたものかと。
- 「瀬名新川図鑑づくり」で参考になる団体の方とつながりたいです！
- ゲンジボタルの復活を企てているので、参考になる団体の方とつながりたいです！
- 巴川流域治水として隣接する畑を遊水地兼せせらぎ公園にしたい→水辺と陸地をつないだ自然再生をやっているところとつながりたい！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

愛知のいい川づくり



愛知県建設局河川課
川瀬 功記

【活動場所】 愛知県内全域 県管理河川

【実施体制（仲間）】 愛知県、市町村、建設コンサルタント、建設会社、市民団体、住民

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

愛知のいい川づくり

- 河川設計等の手引き（愛知県河川課）に、「愛知のいい川づくり」編としてとりまとめた

◆ 目指すこと

- 自然・景観・利用の3要素のバランス
- 平常時の姿や機能を考える
- 地域に愛され、財産となるような川づくり

◆ 具体的な取組

- 護岸の明度・テクスチャ
- 河床幅の確保
- 護岸天端の処理
- 寄せ土、寄せ石
- コンクリートの表面処理
- 階段工の設置



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4

一級河川伊賀川（愛知県岡崎市）



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 治水だけではなく、環境（自然、利用、景観）も含めた河川整備の社会的な合意や価値観の共有はまだまだ足りていない。

環境のベクトルをもっと強く・太く

- 組織内及び業界内でどのように取り組みを徹底、広げていくか。

慣習・慣性力を振り切る

- レベルアップにつながることにもっと取り組みたい。

チャレンジをもっと気軽に

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

二級河川山王川（愛知県美浜町）



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 情報発信の強化
手法、しくみ、空間的な広がり、継続性
- 技術的な裏付け資料の作成
過去の経験から一歩踏み出すためには、わかりやすい考え方や根拠が必要
- インフラの質向上
土木全体として、生み出すもののレベルアップを図る
インフラ・プロダクツとしての質向上を意識する
(生物の豊かな河川整備、風景にマッチした河川整備など)

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

家棟川にビワマスを取り戻せ！ ～本設魚道設置までの道のり～

家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト
佐藤 祐一



【活動場所】 滋賀県野洲市・家棟川流域

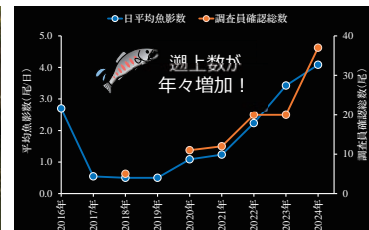
【実施体制（仲間）】 野洲市環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」（愛称：えこっち・やす）、野洲市環境課、滋賀県琵琶湖保全再生課、滋賀県南部土木事務所、滋賀県水産課・水産試験場、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、TOTO株式会社滋賀工場、ビワマス調査隊の皆さん

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

① 自慢したいこと、強みなど

- 市民発意による仮設魚道の設置と県土木事務所による**本設化**
- 地元有志の調査員による毎日の**遡上調査**と密漁監視
- ビワマスが本設魚道を**多数遡上**
- 母川回帰性のあるビワマスがプロジェクト開始以降**年々増加**
- ビワマス調査隊の結成とLINEグループを通じた**地域内の情報共有**



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

② 知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 魚道上流にラバー堰があり、洪水調節・消火用水・農業用水のため地元自治会において運用されている。
- 他地域への送水やより上流での利水操作により水が枯れることがあり、遡上したビワマスや産卵した卵、稚魚への影響が懸念。
- 多目的な水利施設の操作について関係者どのように協議する？



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

2024年に設置された本設魚道



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③ 今後コラボしたい“こと”や“人”

- 市民主体の「ビワマス保全」の輪が県内各地に広まりつつある。これらが連携して、ビワマスの保全や利活用について県民・市民が考える「**ビワマスの日**」を創設したい！
- 「ビワマス保全」は琵琶湖や水辺の環境、そして地域の活性化について考える切り口（きっかけ）の一つ。ビワマスが遡上する時期に**地域の川を眺めて、そのドラマチックな姿に感動できる人・地域**にしたい！



「ビワマスの日」の創設
(11月〇日?)

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

滋賀県東近江市における農業排水路のエコアップ IHIによる小さな自然再生の挑戦

株式会社IHI
吉田公亮



【活動場所】 滋賀県東近江市・愛知川流域

【実施体制（仲間）】 株式会社IHI、株式会社IHIインフラシステム、東近江市、NPO法人里山保全活動団体 遊林会、滋賀県立大学環境科学部 瀧研究室、公益財団法人リバーフロント研究所、滋賀県、愛知川沿岸土地改良区、愛知川漁協組合、公益財団法人東近江三方可基金

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

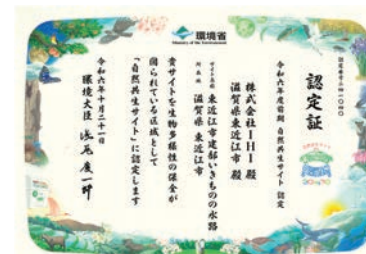
1

①自慢したいこと、強みなど

- 移動距離420km！！
東京・横浜から東近江市まで出張して活動しています
- アユがいます。ビワマスも産卵
愛知川の瀬切れや洪水時の魚の避難場所として機能
- 環境省の自然共生サイトに認定

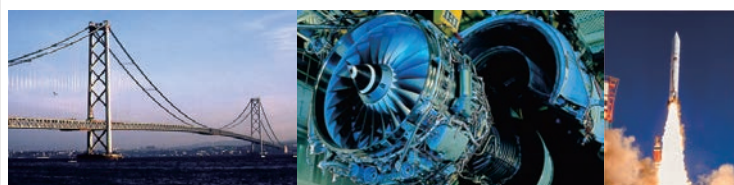


出典：WEB魚図鑑



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



出典：IHI HP



滋賀県立大学 環境フィールドワークの講義受講@矢倉川（2023年6月）

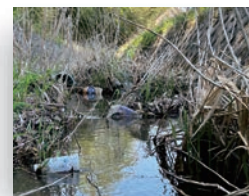
『小さな自然再生』現地研修会（2023年11月12日）

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 川と水路の接続部の段差をどうしたら良いのか？
- 生き物の種類がわからない
- ゴミが減らない
- 除草剤散布の影響があるかもしれない



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 水路の周辺の企業や学校、地元の方々
- 定点観測の仕方を教えてくれる専門家



出典：google map

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

みんなでつくる 野洲川のアユの産卵場 小さな自然再生2.0

国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所
発表：河川環境保全モニター・武田みゆき



【活動場所】

滋賀県守山市・野洲川流域

【実施体制（仲間）】

国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所、滋賀県守山市、株式会社 伊藤園、株式会社建設技術研究所

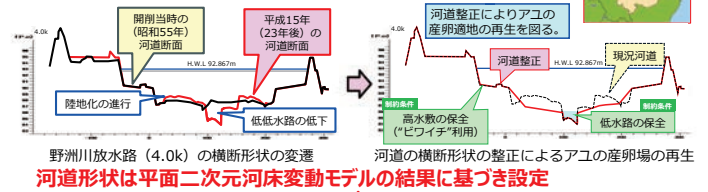
2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

● 国土交通省の野洲川自然再生計画の第3弾として事業中

- ①落差工魚道の改築（H23事業完了）
- ②河口部ヨシ帯の再生（R元事業完了）
- ③瀬淵の再生（指標：アユの産卵）



課題 予測には不確実性がある。

● 自慢：人の手によりアユの産卵場再生の予測の不確実性に対応

● 強み：河川管理者と市民が一体となり、大きな工事（物理現象の理解）と

小さな取り組み（市民の「思い」）の相乗効果!!

アユの産卵場の創出と維持管理・改良

大きな自然再生 小さな自然再生

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

1) アユの産卵を確認できていない!

- ・アユが集まってきているのは確認しているが、卵が確認できていない…
（流下仔魚は確認されているので、近傍では産卵している）



- ・水温が高すぎて、アユがすぐに産卵しない
（産卵場づくりの実施時期を再検討する必要がある）

2) 多くの市民に感心をもってもらいたい!

- ・スマートフォン・アプリを使った調査イベントを試行



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

● 大きな自然再生+小さな自然再生；二刀流による相乗効果

小さな自然再生2.0

大きな自然再生と小さな自然再生の相補性

項目	大きな自然再生	小さな自然再生
規模・範囲	大規模・広域的	小規模・局所的
主な主体	国・行政	地域住民・NPO等
補完する	✓ 治水・利水との総合調整が図れる	✗ 治水上の制約や許認可等が必要
✓ メリット	✓ 広域的な生態系全体の回復が可能	✗ 効果が局所的
✗ デメリット	✓ 長期的な実施体制構築が可能	✗ 活動は担い手の熱意に依存
	✗ 継続的な地域の関心の維持が困難	✓ 参加のしやすさと学習効果が高い
	✗ 高額な費用と長期間を要し、成果が出るまで時間がかかる	✓ 低コストで迅速に着手でき、効果を実感しやすい
	✗ 多様な利害関係者の合意形成が難しい	✓ 住民交流や地域活性化につながる

● 多くの企業や団体とのコラボ

● 企業のCSR活動（R7は伊藤園さんが参加）

● 学校の授業・大学等の研究



伊藤園のアンバサダー
大谷翔平も二刀流!

伊藤園

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

鴨川天然アユの壁問題と 井桁魚道 “#魚道”



京の川の恵みを活かす会（略：活かす会）
副代表 中筋祐司



【活動場所】 京都府京都市・淀川流域（鴨川 他）

【実施体制（仲間）】

漁場生産力・水産多面的機能強化対策の活動組織

構成員：研究者、賀茂川漁業協同組合、京淀川漁業協同組合、保津川漁業協同組合、
宇治川漁業協同組合、市民団体 他（行政：京都府水産課、京都市農林振興室）

2025.05.18 鴨川 丸太町橋下流の落差工（高さ1m）における#魚道の設置作業

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

①自慢したいこと、強みなど

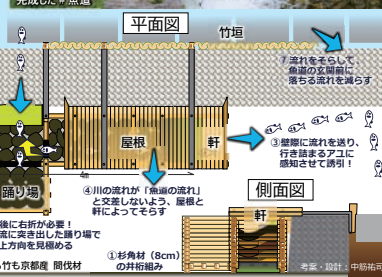
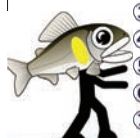
活かす会がつくる魚道

- 1.みんなで手づくり（着脱）できて、
 - 2.増水に耐えて、
 - 3.アユなどが使ってくれる、
- この3点を思考し、デザイン

2013から設置している
井桁魚道（略：#魚道）

7つの特徴…

- ① 素材と構造は？
- ② 固定の方法は？
- ③ 横向きなのは？
- ④ 蓋があるのは？
- ⑤ 箱の中の工夫？
- ⑥ 踊り場の役割？
- ⑦ 竹垣の役割は？



2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

4

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

1. 2011に設立した活かす会は、2014から、農林水産省（水産庁）の漁場生産力・水産多面的機能強化対策交付金を活用し、河川で活動を展開（2011～12は京都市・府交付金）
2. 活かす会は、会員とサポーターにより構成
3. 代表、副代表、幹事（5名）がそれぞれ活動リーダーとして、各活動を実施
 - ① #魚道の設置（3～5月）※2025は3箇所
 - ② 稚アユ遡上調査（5～7月）
 - ③ ゴリ・ハエの産卵床造成と産卵床調査（7～8月）
 - ④ #魚道の撤去（10～11月）
 - ⑤ 川の恵みを活かすフォーラム 食味会&報告会（10～11月）
 - ⑥ 仔アユ流下調査（11～12月）
 - ⑦ 渓畔林整備と水生動物モニタリング調査（2～3月） 他

→ サポーターによる活動の参加人数は現状維持

→ 活動の充実、エリアの拡大は困難

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

5

③今後コラボしたい“こと”や“人”

1. 活かす会は、漁場生産力・水産多面的機能強化対策交付金を活用する活動組織として、河川における小さな自然再生として、一部の壁問題に向き合っている。
2. しかしながら、そんな壁問題は、水路、水田においても、U字溝、水田からの排水塩ビ管など、多数存在
3. 一方で、農林水産省の多面的機能支払交付金を活用する活動組織が、流域の農業地域において、農地維持や資源向上（①施設の軽微な補修、②農村環境保全活動、③多面的機能の増進を図る活動）の活動を実施
4. ③多面的機能の増進を図る活動として、水路魚道や水田魚道の設置が活動項目の1つ（選択制）になっているが、各活動組織において、選択されていない場合が多い。

→ 流域における小さな自然再生活動の新たな展開

→ 活動組織の連携

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

6



2025.07.12 鴨川 三条大橋下流の落差工に設置した#魚道を遡上するアユ（撮影：中筋祐司）

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

みんなの川塾 ～大手川の環境改善と流域学習～

京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探究部

三宅 歩橙 多々納 智



京都府宮津市・大手川流域

実施主体：京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部

協力：上宮津地区、大手川サポーターズクラブ

京都府丹後土木事務所、宮津市教育委員会

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

活動の目的：人と川とを楽しみと学びでつなげる

○大手川と親水公園の環境改善

- ①放置されていた親水公園を川との接点に
- ②バープエやワンドを用いて多様な生物が住める環境作り

○普及活動

- ①「みんなの川塾」の開催
川を全身で体感したり、魚を捕まえる「楽しさ」
水害の怖さ、川と人との関係を知る「学び」
- ②活動を記事にし地域に活動の輪を広げる

強み 高校生が地域の先輩、子ども、専門家とつながりながら川を学び、楽しみながら探究をしている

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 世代をつなげ、裾野をもっと広げたいが...
(悩1)川塾が申し込み多数でキャパオーバー
(悩2)中学生が...
(悩3)30～40台(子育て世代)が川への親しみが薄い

- 地域ごとに河川学習の機会はあるが...
(悩4)年中行事的な単発イベントの色が強い
(悩5)環境学習になっても、環境づくりまでは届かない
(悩6)ノウハウを共有し、実践してもらうまでのハードル

- 小さな自然再生が日常になっていない
(悩7)活動の認知度は高まったが、協働の機会は限定的

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 他の地域の学校や団体と活動をしてみたい
多様な事例を学んで、「新たな視点」を得たい

○「みんなの川塾」を「みんな」のものに

現状：高校生が主体となって企画

課題：「みんな」の要素が強く打ち出せていない

- ①企画者と参加者が明確に分かれている
- ②中学生になると参加できない枠組み
- ③保護者は集合場所までの送迎のみ

方向性：小中高生＋地域の人々で、川塾を企画・運営

期待：持続可能性と発展性の実現

参加者(子どもも大人も)

学生実行委員 行政・協力者
(小中高生) 流域住民

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

淀川河口域の自然再生活動～石干見～

大阪市漁業協同組合
畑中啓吾



【活動場所】大阪府大阪市 淀川河口域

【実施体制（仲間）】大阪市漁業協同組合、淀川河口域を考える会
京の川の恵みを活かす会、海遊館、なにわECO会議

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

① 自慢したいこと、強みなど

- 石干見：石で半円形を組み、石と石の間に魚の逃げ道を作っておき、潮の干満を利用して魚を捕る



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

② 知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 大阪市漁業協同組合では主にイワシシラス、イカナゴを漁獲する船びき網漁業やウナギ、シジミ漁業を操業
- 大阪湾奥部、淀川河口域に位置し、大阪・関西万博が開催された夢洲が近く、大阪湾、淀川の生産性向上に向けた活動に取り組むとともに、大都市沿岸である大阪湾、淀川産魚介類の販路拡大やイメージ向上に取り組む。
- 当組合における課題
 - ① 自然環境の変化等による魚介類の減少
 - ② 大阪湾、淀川のイメージの悪さ

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③ 今後コラボしたい“こと”や“人”

- 淀川河口域の生産性向上の取組
 - ① 淀川河口域を考える会
 - ② しじみ調査、種苗放流（水産多面的機能発揮対策事業）
 - ③ 石干見、ハゼ釣りイベント
- 大阪湾・淀川産魚介類の6次産業化・販路拡大の取組
 - ① 販路拡大の取組
 - ② 6次産業化商品の開発
 - ③ 淀川流域での連携・京の川の恵みを活かす会との連携
- 大阪湾、淀川に関心、環境に関心のある流域、又は流域外の方の参加をお待ちしております。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

福田川水系の 生物多様性確保のための 自然環境調査について



福田川クリーンクラブ
会長 村上健一郎



【活動場所】

兵庫県神戸市・2級河川福田川流域

【実施体制（仲間）】

NPO法人生物多様性を守る会、神戸市立工業高等専門学校、神戸市環境局
落合池里山里池ネットワーク、名谷町奥畑協議会

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

●【継続的かつ多面的な環境調査】

全長約8キロの二級都市河川福田川の厳しくも豊かな生態系を守るために、2014年度から福田川の源流から河口までの7か所を年4回季節ごとに、二日間掛けて巡り

①水生生物 ②水質 ③植生 について調査記録、報告・公開

●【環境改善への取り組みのきっかけ作り】

福田川水系の生態系、特徴的な水質（源流・上流ほど水質が悪い）への市民・行政の理解が深まり、源流のため池では地元住民による環境改善の取り組みが始まった

●【調査に必要な専門知識あり】

当クラブには、水処理土木の専門家、森林管理の専門家があり、水生生物の捕獲・飼育（同定）に詳しい協力団体がある

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

【直面している課題や壁】

- 調査メンバーの固定化、高齢化
- 近年の天候不順に対応した柔軟な調査日程の変更
- 任意団体の限界

【解決したい困りごと】

- 調査の専門機材の拡充・検査費用の捻出
高精度のDo測定器、高度な土壌分析
- 会議・打ち合わせができ、ネット環境を備えた常設スペース確保

- 「生物多様性確保」のための市民の啓発（外来生物対策）

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

【コラボレーションしたいこと】

- 「治水一辺倒の川」 → 「生き物と景観に配慮した川」
河川工学の専門家の知見を加えた具体的な改良デザインと、流域住民・自治体への実現働きかけ
目指すは、横浜市栄区の「いたち川」
- 福田川水系の豊富な水生生物の飼育・常設展示・保護啓発活動
目指すは、「西宮市 環境学習サポートセンター ミニミニ水族館」

【コラボレーションしたい人】

- 全国の先進の河川の環境保全・川づくりの現場の視察・推進者との交流
- FCCの活動を理解し、支援くださる企業・団体

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6



河川×流域
兵庫県千種川における
水辺の自然再生

千種川圏域清流づくり委員会
ネットワーク部会長 横山 正

【活動場所】 兵庫県千種川流域（宍粟市・佐用町・上郡町・相生市・赤穂市）
【実施体制（仲間）】 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所・個人会員・（千種川漁業協同組合・佐用川のオオサンショウウオを守る会・流域ライオンズクラブ・赤穂さとうみカヤックス）などが緩やかに連携

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

①自慢したいこと、強みなど

- 「千種川圏域清流づくり委員会」（成立背景には昭和48年から流域ライオンズクラブが「流域で連携して」水生生物調査を実施してきたことが大きい。）
2002年から住民と地域活動団体、県土木事務所がゆるやかに連携しながら、川づくり活動を実施してきた。専門家の先生方からのアドバイスをダイレクトにいただけることが実施するうえで非常に重要。
- 県が流域全市町から、川に思いの深い人材・団体をつないで意見をを集め、流域圏をターゲットにした具体的活動を展開してきた。
- 活動例：春は下流の汽水域で稚アユやモクスガニの遡上観察、夏は中流でチチコ（カワヨシノボリ）釣り大会、秋は中流の河川ビオトープ（小さな自然再生実施後の経過観察。初期は秋に源流のブナ林散策（熊遭遇の危険性が高いため中止））8月初旬に全流域で一斉水温調査⇒（高水温域の分布拡大）
- 「水辺の小さな自然再生」の取り組みを、兵庫県が具体的な事業施策として実施。

（千種川自然再生計画） （千種川水系における小さな自然再生事業の実践と今後の展開について）

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



これもまた小さな自然再生

- ・千種川水系安室川・淡水産紅藻類チヌシノの保護活動の一環
- 「川を蘇す、磨く」の体験イベント
- ・地元山野里小学校区の地区公民館主催の「なんでも体験隊」プログラムの一つとして実施
- ・上郡中学校科学部がチヌシノの生態研究
- ・上郡高等学校地域環境科がチヌシノの孢子の着床実験やわんど「タナゴパラダイス」は河川の連続性のための水路を形成・維持活動

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

②知りたいこと、悩みごとや困りごと 重い・・・

- 人と人をつなぐことに困難さが増した。
行政の担当は数年で異動があったり、住民側も新しいメンバーも加わって活動しているが、イベント・調査実施への関わりに限定されがちで、当初の委員会の設立目的である川づくり全体を考える組織としての形がとれない。
- 地域の高齢化がすすみ活動団体が維持できなくなっている。
これまで半世紀以上、千種川全流域での水生生物調査を実施してきたライオンズクラブが、5クラブのうち3クラブが解散したり活動停止になったり、千種川全体を網羅して活動する団体や人のつながりが途絶えてしまった。
- 「働き方改革、部活動の地域移行」の影響
水温調査や水生生物調査の実施に際して、小中学校の児童生徒、教師の休養期間によるグループでの参加実施が出来なくなった。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



- ・赤穂市加屋川（河川勾配1/1000）での小さな自然再生活動(2024-2025)
- ・「加屋川ふるさと川整備連絡協議会」と赤穂市、県光都土木事務所河川砂防第1課が連携し、隣接する赤穂小学校児童から希望者を募集して実施
- ・昨年のバード工設置による流れの変化により、オオカナダモが生えないエリアができており、パラタナゴ、インガイ、スジシマドジョウ、カワムツ、オイカワ等の魚類が目視確認できた。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

③今後コラボしたい“こと”や“人” いろいろ！

- 流域委員会活動を継続する、継承していくための人材がない。
入れ替わる行政担当者と関係をつないでいく人材も必要。
- 流域住民やイベント参加者が、日常的に川の恵み、小さな自然再生による成果を実感してもらえる取り組み事例があれば参考にしたい。
- 流域ライオンズクラブが52年間実施してきた「千種川水生生物調査」データ、委員会が23年間実施してきた「千種川水温調査」データ、これらを何らかの形で活用してもらうことはできないか。もったいない。
- 兼業農家・川漁師として、千種川の恵みを「食」の観点で知ってもらえるよう、個人販売を行っているが、流通方法や販路の拡大についての事例やアイデアを知りたい。（小規模な個人・少人数の漁では、鮎・モクスガニ・スッポン等は、毎日安定して捕獲できず、水温や水量条件により、漁が一度に集中した漁獲になる。）
例：「ChikusagawaPride」というブランド名で、SNSで千種川中流産の鮎、カニの食文化や味を発信している。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

丹波篠山市における「ふるさとの川づくり」への取り組み

ふるさとの川づくりワーキングチーム（丹波篠山市）
井関 良太



【活動場所】

兵庫県丹波篠山市内 15箇所 加古川、由良川、武庫川流域

【実施体制（仲間）】

丹波篠山市農都環境政策官、まちづくり部地域整備課、環境みらい部農村環境課、市内小学校・幼稚園、市内高校、環境創造事業者、兵庫県自然保護協会

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

--- 生きものと子どもたちの笑顔あえる ---
ふるさとの川づくり

丹波篠山市は、瀬戸内海に流れる加古川・武庫川、日本海に流れる由良川の3水系の源流域に位置。多種多様な生きものが生息し、子どもたちが生きものの魅力に触れることができる「ふるさとの川再生事業」を実施。



【彼見四十八滝】

丹波篠山市では、多種多様な生きものが暮らす河川環境を保全・再生し、その魅力を次の世代に引き継いでいくため、平成25年に『ささやまの川・水路づくり指針』を策定（令和5年11月改訂）。「ふるさとの川再生事業」は、この指針に沿った取り組みとして、地域や学校、環境創造事業者らと連携して、身近な川を生きものと子どもたちの笑顔あふれる豊かな川に再生させる取り組みです。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4

代表的な取り組み



篠淵川 魚道整備
(丹波篠山市川阪)

丹波篠山市初となる魚道整備への取り組み事例。令和2年度にて、生きものの遡上効果を図るため、落差部に対する解消として魚道を設置。工事受注者と市職員による植石の配置検討・作業を実施。



畑川 魚道整備
(丹波篠山市畑宮)

地元まちづくり協議会や小学校・高校との連携による生きものの調査を踏まえ、令和3年度にて魚道を整備。取り組み効果として、「未来の畑川」と題して、小学校の学習発表会への演出へとつながる。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

【みなさま教えてください】

- 取り組み後の取扱いについて
 - ① 効果検証について（定期的な検証が必要）
 - ② ハード整備後の将来の維持管理など（機能回復の補修方法）
 - ③ P Rの方法
- 関係機関との調整・協議
 - ① 河川管理者
 - ② 行政 ⇄ 地域住民 ⇄ 学校 ⇄ 関係機関のあり方・位置付け
- 将来へ
 - ① 源流域のまちにふさわしい川づくりとは
 - ② 豊かな自然環境の保全・再生を未来に引き継いでいくためには

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

代表的な取り組み



高坂川合流水路 環境配慮対策
(丹波篠山市高坂)

地元自治会主体による水路づくりとの接続工事を実施。自然環境に配慮した石積水路などを整備。地元自治会との連携による農村地域の環境保全への取り組み。令和5年12月完成。



波賀野川 親水護岸整備
(丹波篠山市見内)

生態系遡上効果への魚道整備に合せ、浅瀬形成による近隣児童・幼稚園児への要望対応として、親水スペース整備。生物的要素と親水の要素の両面への取り組み。令和7年5月完成。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 今後、みなさま方の取り組みについて、先進地としての視察などを考えています。受け入れは可能でしょうか。

- ① 市民参画による活動などを通じた川づくり
- ② ヒトが集い水辺に親しみを深める川づくり
- ③ 子どもたちを対象とした川イベント
- ④ 都市部の川づくり、農村部の川づくり
- ⑤ 水の日・水の週間への取り組み
- ⑥ 近年の気候変動に対する取り組み



啓発冊子を配布しています。
是非ともご覧ください。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

小さな村で始まった 水域をつなぐ小さな自然再生

株式会社エーゼログループ
太刀川晴之



【活動場所】岡山県・西粟倉村・吉野川源流域（吉井川水系）

【実施体制（仲間）】株式会社エーゼログループ、西粟倉村、香川高等専門学校高橋研究室、中央大学海部研究室、一般社団法人Nest、一般財団法人西粟倉むらまると研究所、一般財団法人ネイチャープレナー・ジャパン、学校法人国際総合学園 国際自然環境アウトドア専門学校 ほか

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

「ピオ田んぼプロジェクト」

目的：生物多様性保全と中山間地域における持続可能な農業の両立

内容：田んぼの一部にピオトープを造成し、環境保全型農業を実践しながら、田んぼの価値の最大化にチャレンジ。ピオトープづくりや水路の環境再生を地域外の関係人口や地域の小学生とともに、小さな自然再生で実施。田んぼだけではなく、用排水路の環境再生や河川からの連続性回復に向けたポータブル魚道の設置など、多面的な活動を展開中。

効果：メダカやドジョウ、水生昆虫が大幅に増加。絶滅危惧種の繁殖・増加。CSAをモデルとした「ピオ田んぼクラブ」で田んぼや生きものを中心とした新たな関係人口を創出。新たな付加価値によるブランド化や6次化



「オオサンショウウオをシンボルとした川の再生」

目的：川に魚がたくさん溢れ、そこで川遊びをする子供達の風景を取り戻す

内容：吉井川源流域の知社川の環境改善とオオサンショウウオ保全

堰へのポータブル魚道設置と効果検証、人工繁殖巣穴の設置、バープエブリなどのイベント実施

効果：オオサンショウウオの遡上の確認

豊かな自然が残る源流域において、河川・水路・水田を一体として捉え、地域内外の行政・民間・研究、教育機関が連携しながら、互いの強みを生かして活動を推進！
⇒豊かな暮らし(well-being)と豊かな自然環境が一直線につながる「未来の里山」の実現へ

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

<取り組みの拡大に向けて>

- 地域住民の参画機会のさらなる増加にむけて
○「ピオ田んぼクラブ」の活動で移住者・子供・親子の巻き込みはできつつある。
△地域の農家をどのように巻き込んでいくか
- 行政や教育機関との連携強化
地域への取組拡大（取組農家への補助等）に向けての行政との連携強化
希少種保全の仕組み強化や、「みんなで守っていく」ための工夫。

<農地や水路の維持管理>

- 管理コストの軽減にむけてのさらなる工夫
- 収益化（農家の所得向上）とうまれた価値の地域還元



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

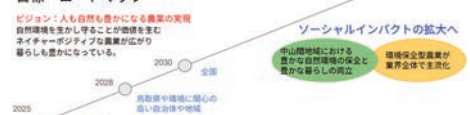
- 「ピオ田んぼ」や「ポータブル魚道」に取り組みたい地域や人、企業
- 類似の取組をされている地域の方々
今取り組んでいるモデルを全国に広げていけることが最終目標です。
情報交換や連携をさせていただけたら幸いです。
- 岡山県吉井川流域や鳥取県の地域や企業、金融機関等
特に自分たちが活動を行っている吉井川流域全体で取組を拡大させていけたら嬉しいです！
ぜひ、一緒に活動していきましょう。

まずはぜひ「ピオ田んぼクラブ」にご入会いただけたら嬉しいです！
現在、来年度の企画構想中。最新情報は、Instagramにて！⇒

川の再生はふるさと納税型クラウドファンディング実施中！
応援お願いします！↓



目標・ロードマップ



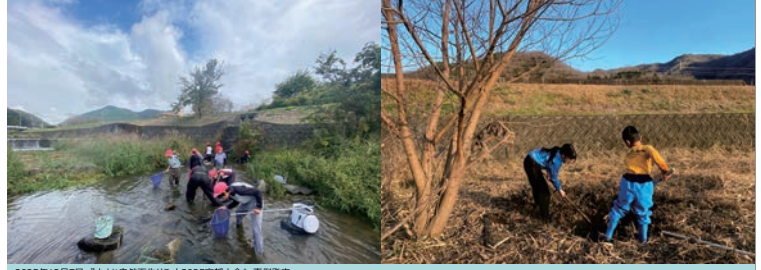
2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6



① 自慢したいこと、強みなど

- 老若男女が集うふるさと
- とってもとっても小さな自然再生、だけど日常
- 町内のこども園や小学校で水辺教室開催
- 小さな自然再生マインドを持った川ガキ
- エビモ増えました



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

② 知りたいこと、悩みごとや困りごと

- いつも遊んでいる川の浚渫工事を回覧板で知る
→もっと早く知りたい、一緒に考えたい
- 自然観察会はできるようになった→自然再生にもっと注力したい

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



③ 今後コラボしたい“こと”や“人”

- 身近な自然への愛着を抱く川ガキを増やし続けたい
- 日笠川流域の自然のこと、生きもののこと、自然再生の手法、私たちにできること、もっともっと知りたい
- 工事を回覧板で知るのでなく、事前に河川管理者と話せるようになりたい
- 日笠川流域オリジナルの流域治水・自然再生をみんなで考えたい

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

川遊びから、川づくりへ！

～小さな自然再生で、みんなでやる川づくり文化をつくる～

NPO法人 川塾
塩崎健太



【活動場所】 徳島県徳島市及び神山町 吉野川下流域と支川 鮎喰川
【実施体制（仲間）】 NPO法人川塾、株式会社パドルブリュー、阿波魚類研究所
WEEK神山

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- ・参加者のべ3,000人/年。川と愉快地暮らす文化を創る。
- ・0歳～大人まで幅広い年代に、楽しみながら
小さな自然再生を体験できる場を提供している。
- ・みんなで豊かな川をつくり、暮らす文化を根付かせる。



2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

4



思いっきり、川で遊んでいます！！

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- ・河川環境に対する、データ・目標・計画がない。
- ・活動を継続させるための資金をどう集めるのか？
（企業との協働など）
- ・地域の方の巻き込む方法を知りたい。
- ・河川管理者との連携の仕方を知りたい。
定期的に情報交換の場を設けるには、どうしたらいいか？

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

5



赤ちゃんもお母さんも、石を積んで遊ぶ

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- ・魚類の生息場調査を実施する。
- ・「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定をする。
- ・目標を達成するために、計画を策定し活動を進める。
- ・目標設定、計画づくり等の相談に乗って下さる専門家の方と一緒に活動したい！
- ・一緒に川・地域づくりを楽しめる企業等と協働したい！
- ・川の価値・楽しみが広く伝わる様に、伝えるプロとコラボしたい！

2025年12月7日 『小さな自然再生サミット2025京都大会』 事例発表

6

神山の先達とともに、鮎喰川にもう一度、鮎を！

神山つなぐ公社
田中泰子



【活動場所】徳島県名西郡神山村・鮎喰川流域

【実施体制（仲間）】神山つなぐ公社、神山村（まちを将来世代につなぐプロジェクト）、神山に暮らす先達の皆さん、活動NPO法人川塾、あゆリーダー（＝神山村内の高校生・高専生・大学生のボランティアリーダー）、神山村内の小学校（神領小学校、広野小学校）、神山村内の保育所（下分保育所、広野保育所）、アドバイザー&活動サポート：滋賀県立大学 瀧健太郎教授・瀧研究室の皆さん

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

①自慢したいこと、強みなど

〈まちを将来世代につなぐプロジェクト〉

地域の先達に学ぶ、防災教育を兼ねた「子どもの自然体験」

地域の先達とともに・・・

「遊び」→「自然への感性と知性を育む」→「命を守る力を育む」

世代を超えて育まれる温かい関係性＝地域コミュニティの再構築

鮎の遡上復活を目指し、地域全体の喜びとして共有したい

鮎喰川流域に暮らす「ひとりひとりの自然観を取り戻す」「流域の文化を再びみんなのものに」

地域 学校 保育所

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 先達の知恵をどのように体系化・記録化するか
- 運営体制の継続性と担い手育成
- 「生物多様性」の観点を地域住民と理解していくプロセス
- 町の中で別々に行われている 山・里・川の学校での取り組みを 流域プログラムとして育てるには？

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 地域の自然観（先達の知恵）の可視化
- 中山間地の川をフィールドにした研究や実践の連携
- 河川生態・魚道再生の専門家からの学びの場づくり

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

サケ・マス類の自然産卵促進 に向けた可搬魚道開発の挑戦

国立高専機構 香川高等専門学校 高橋研究室
高橋直己



高橋研究室のホームページ

【活動場所】 北海道斜里郡斜里町シマトツカリ川流域・海別川流域

【実施体制（仲間）】 国立高専機構 香川高等専門学校 高橋研究室，斜里町役場，斜里第一漁業協同組合，ウトロ漁業協同組合

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- 高専の教育・研究と地域の取り組みが一体となって課題を解決
- 地域の力で魚道を運用し，良好な流況を創出



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

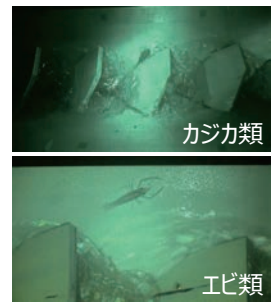
2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 技術の応用可能性を検証するため、様々な現場や種を対象に研究中。



アユの生息地での実証実験



他の可搬魚道¹⁾を
利用する小型水生動物

他の可搬魚道¹⁾と同様に，小型・中型の水生動物が利用できるか？

1) 高橋直己，木下素人，齊藤 稔，柳川竜一，多川 正，実河川におけるV形断面可搬魚道を用いた水生動物の選上と魚道内流速特性，土木学会論文集B1（水工学），Vol.75，No.2，pp. I_565-I_570，2019.

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 「可搬魚道システムの簡易性と機動性を活かして，既設魚道の修復技術を開発できないか？」
（一緒に研究開発に取り組んで頂ける仲間を募集中！）



【破損や河床低下で機能していない既設魚道】
浅く、流速が大きく、壁面から剥離した流れが
発生しており、水生動物が進入・移動困難な状態



可搬魚道ユニットを結合して
適切な水深・流速分布を形成し
壁面からの流れの剥離を抑制

U：可搬魚道ユニット

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

幼稚園と保護者と技術者が合作する
園児専用里山体験フィールド
「若草幼稚園 すくすくの森」 since1989

学校法人 若草幼稚園



発表：NNラントシャフト研究室 西山 穂

【活動場所】 高知県 高知市・2級河川 鏡川流域

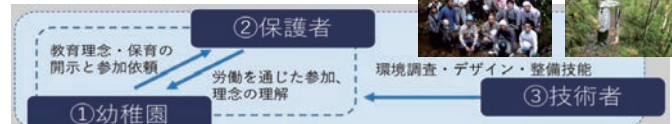
【実施体制（仲間）】

学校法人 若草幼稚園、若草幼稚園PTA、とうちゃんず、すくすくマニア（仮）、
NNラントシャフト研究室、（株）西日本科学技術研究所、（株）相愛

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

①自慢したいこと、強みなど

(1) 保護者・技術者との協働体制



多分野のプロ人材による多様な協力を享受できる（PTA・お父さんサークル・森整備参加など）

(2) 整備と活用によって広がった保育の可能性



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

(1) 自然環境を活かした“あそび保育”の社会認知



(2) 保育士のスキルアップ



- ・自然体験の幅
- ・企画運営の技術
- ・安全管理の判断

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

③今後コラボしたい“こと”や“人”

(1) 学童期(=小学生)へのアプローチ

- ・卒園後に教育を連続させ、地域へ広げる
- ・森資源と保育士人材を有効活用する



(2) 園外の保育者養成：自然体験保育の研修など

- ・地域の自然資源を活かし、地域の保育・教育水準を向上させる

(3) 生物研究者等とのコラボ

- ・この森の個性をもっと理解する
- ・個性・価値を伸ばす方策を議論する



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

とうのはるがわ 唐原川プロジェクト

～大学のそばを流れる川の小さな自然再生～

KSUプロジェクト型教育
『小さな自然再生』で地域の魅力を高めるプロジェクト



公益財団法人リバーフロント研究所
和田章主任研究員による
そんなに堅苦しくない講義

7月1日(4限)1209教室



九州産業大学
KIU KYUSHU SANGYO UNIVERSITY

網中 あお
森田 柊

【活動場所】福岡県福岡市 唐原川(二級河川)

【実施体制】九州産業大学の学生たち、唐原川を考える会



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

唐原川プロジェクトの効果

良かった点

- ・活動後は水が綺麗になって、生き物も増えた(気がする)
- ・出水後のワンドを実際にウナギやコイが利用していた。
- ・セイバンモロコシ等の外来種を刈り取ったことで、景観が良くなった。
- ・近くの保育園の子供たちが興味を持って川を観察するようになった。

改善すべき点

- ・メダカの利用を想定してワンドやたまりを作ったが、秋の調査ではメダカはいなくなっていた。
- ・深みがあって危ないところもある



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4

活動のきっかけ

九州産業大学のそばを
流れる唐原川



荒れた状態の唐原川

草ぼうぼう、ゴミもたくさん、地域の気持ちも荒れている



愛護活動をしている地域の方

高齢化で年数回の川沿いのゴミ拾いが無いっぽい

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

①悩みごとや困りごと

- 改修前にはいたはずのメダカがいなくなった・・・



- アメリカザリガニやウシガエルなどの外来種も多い。

⇒生態系への影響だけでなく、ウシガエルの鳴き声は近隣への騒音被害にも繋がる。



- 調査中に入口の鍵を閉められたことがある。

⇒地域の方との情報共有や協力が不十分？

- 大学の講義で関われるのは1年次のみ、継続的に改善していくには？

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5

唐原川プロジェクトとは



・「グリーンインフラ論」の講義を通して「小さな自然再生」を知り、唐原川で実践自分たちで川を改善し生物(特に在来種)の生息に適した多様な環境を作りたい！



- ・草刈りによる外来植生の駆除
- ・ワンドやたまりの造成
- ・掘り出した石を活用した石倉づくり



和田さんにも来てもらいました！！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

②知りたいこと・学びたいこと

- ワンドを作るなどしたが、大雨の後にメダカがいなくなりました。

⇒構造の問題？季節的な問題？

- 冬場の調査では魚類の数が全体的に減っていた。今後回復するのか！？

⇒今後も定期的な調査を続けたい

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 授業で唐原川の保全に関われる機会は1年次のみであり、継続的に関わってけるように仲間・集まりを作りたい。

⇒学科・学部を超えた緩いサークルのようなものを！

- 活動を続けていくにあたって、地域の方との連携を強めていきたい。

⇒活動場所のすぐそばには保育園もある

- 以前、唐原川で行われていた花見をするのもいいよね★

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

山田緑地で行う水辺環境の保全・再生 魅惑の湿地帯ビオトープづくり 特定外来生物の駆除

北九州市立山田緑地管理事務所
上野 由里代



【活動場所】 福岡県北九州市・紫川流域（山田緑地）

【実施体制（仲間）】 山田緑地管理事務所、山田緑地ボランティアの皆様、NPO法人北九州・魚部、北九州市立いのちのたび博物館（館長、学芸員の皆様）、北九州市ほたる館、中島淳先生、NPO法人グリーンワーク、株式会社九州造園、竹林製作所、北九州市

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

毎年たくさんの両生類が産卵に。多様な水生生物が集う環境になっている

▼希少種の発見もありました!!

①ハガマルヒメドロムシ

タイプ産地「小倉」で2022年に63年ぶりの再発見

②キボシケシゲンゴロウ

北九州市初記録、県内で2ヵ所目の生息地の発見

③チビマルケシゲンゴロウ（本種の分布北限域）

県内では現在、山田緑地の「ガマの池」のみで生息



「場」を保全再生すれば生き物は増える。「小さな生き物」も棲める環境が大切。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 特定外来生物「アライグマ」の増加＝産卵にきた両生類も襲う。
- 園内だけで捕獲し続けても他所から侵入。
（まずは）県内全域で、積極的に駆除に取り組む必要がある。
- **少人数で運営**：生き物調査・保全・再生、園内清掃（維持管理）
イベント企画運営、ガイド・出前講座（環境教育）、チラシ・展示制作等
＝人件費削減に伴う現場スタッフのさらなる減少＝人手不足



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- **山田緑地の生きもの図鑑をつくりたい!**
＝ 地元の人も知らない身近な自然や生き物のことなど
- **湿地帯ビオトープをつくりたい人を増やしたい!**
＝ 生物多様性の保全（人のためにもなる）自然観察も楽しい
- **現地視察、コラボイベントなど大歓迎!**
＝ 活動の「場」や普及啓発の機会をより増やしたいと思っています



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

温泉観光地の親玉、大分県別府から 生き物と自然の魅力を発信 ～亀川プロジェクト「人と温泉と生き物と」～

NPO法人北九州・魚部（ぎょぶ）
井上大輔



【活動場所】大分県別府市 亀川温泉

【実施体制（仲間）】NPO法人北九州・魚部、中島淳博士、福田宏博士、大分県自然保護推進室、亀川の自然環境を守る会、アコーディオン演奏家・木下隆也氏、亀川中央町2区自治会、亀川中央町の一部住民、APUサークル“WANTTO”など

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- ①思い：小さな自然再生から、すこし大きな自然再生へ
- ②この取組の「小さな自然再生」とは・・・？
＝その地の自然を再発見し、人と自然のつながりを掘り起こすこと。
※歴史や風土、人々の生き様なども同時にからめながら・・・
人々に身近な自然の存在を再認識（≒再生）すること。
- ③それをもとに、そこで得た自然や生き物のありようを自ら価値づけ。
身近な自然の面白さに気づいて「地域自慢」へ。つまり地域性（や生物多様性）の面白さとしての価値を生み出していく。
- ④さらに町（亀川温泉や別府）、あるいは温泉という自然資源の新たな魅力として意味づけをしていく。それを日本の代表的温泉地、京都別府から、内外に、様々な手段で、次々に、仕掛けていく。
- ⑤継続的調査＆人のFW→成果を踏まえ価値創造の多様な取組

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

- 課題や壁は悩みや壁ではなく、次への大切なモチベ。
ワクワクが根幹の活動なので、それがないと続かないのかも・・・



【謎】別府だけ
夏に消える？！



亀川最後の蓮田
ご年配二人だけ！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

- 全く無縁の土地で始まった、「生き物好き」が「生き物視点」での取組、どこで、どう広がっていくのか？を楽しんで続けていきたい。



たとえば。

別府の川は、ある意味「終わっている」
どこも三面コンクリート。

まさに名前を失った川。

そして住人も特に違和感
を持ってなさそう。

この取組を続けることが
こうした意識の変容、
川や湿地、生き物への
視線の変容につながると
また面白くなるかも。

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

治水・利水・環境の三方よし！ 由布院温泉の宮川再生プロジェクト

ゆふいん豊水会（豊かな水環境創出ゆふいん会議）
事務局長 富山雄太



YouTube

ホームページ



【活動場所】 大分県由布市湯布院町（由布院温泉）・大分川流域

【実施体制（仲間）】 人材育成ゆふいん財団、大分川漁業協同組合、大分川漁業協同組合みなもと支部、由布院温泉観光協会、由布院温泉旅館組合、由布市商工会湯布院支所、由布市商工会湯布院支部青年部、ゆふいん水田営農サポート研究会、湯布院地域自治委員会、温湯区長、温湯区財産管理委員会、湯布院町青少年ボランティアサポートセンター、湯布院経済同友会、NPO法人 ユクリエ 大分県大分土木事務所など、由布市環境課など、九州大学、

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

1

①自慢したいこと、強みなど

- 以前の概要
水草の堰上げ効果によって河川水位が約40cm上昇、農業用水路の排水不良、絶滅危惧2類ササバモも危機。
- 実施効果
部分的な根絶に成功、平常水位は36cm低下、農業用水路もスムーズに、ササバモも増加
- 多様な関係者で持続的な活動
みんな忙しい！特に観光関係者。多くの関係団体が少しずつ人手を出す。地域貢献したい銀行さんには超感謝。
- 技術開発
対象種の形態や河床の状況に合わせて効果的な手法検討。
例）消防ホースの放水で吹き飛ばして、下流でキャッチ重機で河川外へ



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

4



川を堰き止める外来種の水草 全部抜く

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

2

②知りたいこと、悩みごとや困りごと

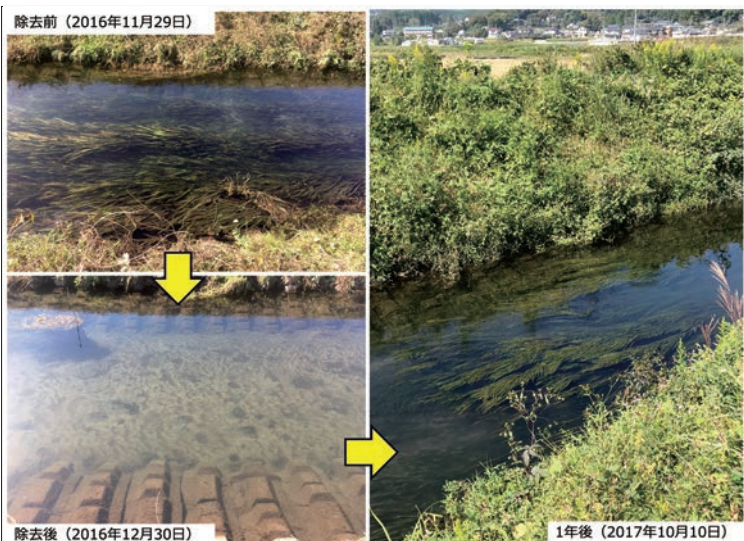
- 困りごと
上流から始めて範囲が合計約800m。すでに「小さな」自然再生ではない。フォローやモニタリングが追いつかない。どこで折り合いをつける？
- 知りたいこと
【最新研究】日本国内でオオセキショウモとされてきた種が多くがオーストラリアセキショウモだと判明。
宮川は湧水河川で冬も温かく熱帯性外来種も生息できる可能性。
対象種の正体がわからなくなりました。



最大2m！

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

5



除去後（2016年12月30日）

1年後（2017年10月10日）

2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

3

③今後コラボしたい“こと”や“人”

外来種駆除により、砂礫の河床や在来水草が復活した宮川
ようやく下地が整ったので次はハビタットの再生をやりたい。

- ナマズ
盆地の氾濫原河川・宮川は護岸の石組みの中にナマズが多い。隠れ家が現在護岸だけ。そこで石組み等でナマズの住処づくり
- オオシマドジョウ
由布院盆地で採れなくなってきたオオシマドジョウ。
安定的に砂河床を維持できる施工をやりたい。
- ゲンジボタル
30年前はホタルが乱舞していたらしい。
今は1尾程度。
①砂礫河床の復活←**今ここ**
②カワニナ復活
③幼虫定着
④サナギのハビタット再生
⑤ホタル復活



2025年12月7日『小さな自然再生サミット2025京都大会』事例発表

6

■小さな自然再生サミット実行委員会

■実行委員長： 中村 太士（北海道大学大学院農学研究院 名誉教授）

■実行委員：

（五十音順）

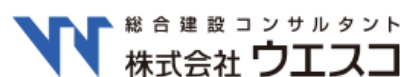
氏 名	所 属
今井 洋太	神戸市立工業高等専門学校
伊豫岡 宏樹	九州産業大学建築都市工学部
佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
杉野 伸義	KANSOテクノス
瀧 健太郎	滋賀県立大学環境科学部湖沼流域管理研究センター
竹内 えり子	建設技術研究所
武田 みゆき	日本環境NPOネットワーク
田原 大輔	福井県立大学海洋生物資源学部
林 博徳	九州大学工学研究院環境社会部門
原田 守啓	岐阜大学 高等研究院環境社会共生体研究センター
町田 善康	美幌博物館
三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館
山下 慎吾	環境省自然環境局生物多様性センター

■事務局：

佐藤 充人、白尾 豪宏、鈴木 敏弘、和田 彰（公益財団法人リバーフロント研究所）

■協賛：

（五十音順）





小さな自然再生サミット
2025京都大会
案内ページ